令和　７年１２月「月　報」

１　はじめに

11 月 25 日、増田会長は小泉進次郎防衛大臣にお目にかかりました、
　小泉大臣は、これに先立つ 22 日～23 日に宮古島分屯基地、石垣駐屯地、与那国駐屯地を視察しており、冒頭、前線で任務に就く隊員の様子やその家族との懇談の感想を述べ、隊員と家族を守らねばならないと述べました。増田会長からは、小泉大臣が着任時の訓示や自衛隊音楽まつりでの挨拶で「家族」に言及されたこと、また今「隊員と家族を守る」と仰った決意に謝意を表しつつ、

家族会の現状と自衛隊に対する協力（特に家族会員のつながりを通じた募集協力や省統一の協定による家族支援協力）等の活動基盤の充実には家族会会員の勢力の充実が重要であること等を申し上げました。　　　　（注：小泉大臣の着任訓示を別添します。）

　また、それに先立つ 11 月 17 日には、昨年に引き続き、自由民主党国防部会「予算・税制等に関する政策懇談会」において、防衛力の人的側面に係る改善項目として、募集、処遇、人事制度、家族に対する福利厚生の他、自衛隊の「憲法」における位置づけを明確にした上で自衛隊を構成する人的要素の有り様を考える必要性を提言しました。

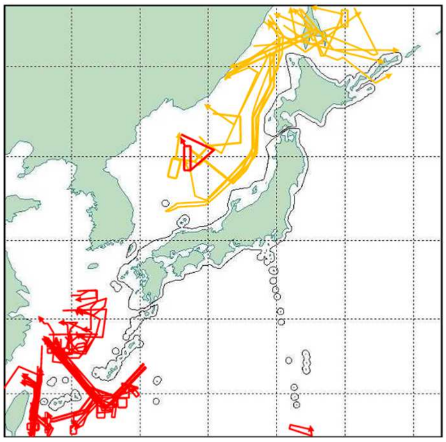
２　防衛省・自衛隊の活動（防衛省 HP 等）

（１）統幕発表によれば、2025 年度上半期（2025 年４月１日～９月 30 日）における緊急発進回数は 265 回でした。（昨年度同時期は 353 回。）

　推定を含め、緊急発進回数の対象国・地域別の割合は、中国機約 75%、ロシア機約 22%、その他約３%でした。

　2025 年度上半期においては、５月３日に、尖閣諸島周辺の我が国領海に侵入した中国海警船から発艦したヘリコプターによる領空侵犯が発生した他、昨年度同時期を上回る頻度での、中国の無人機による与那国島と台湾との間の通過、ロシアＴｕ－９５爆撃機及び戦闘機による日本海における飛行を確認するなど、中国機及びロシア機による活発な活動が確認されました。

緊急発進の対象となった
ロシア機及び中国機の飛行パターン



赤：中国機　　　黄：ロシア機

（２）東京都八丈町における台風第 22 号及び第 23 に係る災害派遣

令和７年台風第 22 号の影響により、10 月９日（木）以来実施していた八丈町（八丈島）での災害派遣活動は、11 月 14 日 2100 に入浴支援活動が終了し、全ての活動を終了しました。活動した部隊は陸自：第１後方支援連隊（練馬・東京）、第１飛行隊（立川・東京）、第 12 ヘリコプター隊（北宇都宮・栃木）（相馬原・群馬）。 海自：横須賀地方隊横須賀警備隊（横須賀・神奈川）。 空自：第１輸送航空隊（小牧・愛知）、第３輸送航空隊（美保・鳥取）にわたり、連絡員の派遣、給水支援、給食支援、入浴支援、人員・物資等輸送を行ったほか、「官庁間協力」として、総務省からの依頼に基づき、航空自衛隊第１輸送航空隊（小牧・愛知）のＣ-130×１機及び陸上自衛隊第 12 ヘリコプター隊（北宇都宮・栃木）のＵＨ-60×２機により、通信事業者各社の作業員及び衛星通信機器等を青ヶ島村へ輸送しました。

（３）小型輸送艦２番艦、３番艦の命名式・進水式

昨年 11 月の１番艦に続き、海上輸送群の２番艦「あまつそら」、３番艦「あおぞら」が広島県の内海造船で進水しました。

両艦の命名式は中部方面総監遠藤陸将が執行し、「あおぞら」の命名式・進水式には宮崎防衛副大臣が出席しました。

７年度末に配備される予定です。

遠藤中方総監

宮崎副大臣

（４）令和 7 年度海上自衛隊演習

10 月 20 日～31 日、海上自衛隊は日本周辺海空域において令和７年度海上自衛隊演習を実施しました。

海上自衛隊演習は昭和 29 年（1954 年）から実施している海自最大の演習で海自艦艇約２０隻、海自航空機約 20 機が参加し、各種戦術訓練や洋上補給等を訓練しました。

今年度はニュージーランド空軍、フランス海軍が初めて参加しました。

（５） 日比人道支援・災害救援共同訓練

10 月 7 日～11 日、航空自衛隊はフィリピンにおいて日比人道支援・災害復旧共同訓練を実施しました。この訓練には日比両国の C-130H が参加し、物料投下訓練や大量傷病者救護訓練等を行い、人道支援・災害救援に係る能力の向上及び日比空軍主幹の連携強化を図りました。この訓練の期間中にセブ州沖で発生した地震に対応して、日比円滑化協定を適用し、訓練参加中の空自 K/C-130H がレイテ島の基地からセブ州の基地まで、フィリピン側が用意した支援物資の輸送を行いました。

3　家族会の活動

（1） 防衛講演会を開催

田辺岐阜県会長

11 月 30 日、岐阜市のホテルグランヴェール岐山で、岐阜県自衛隊家族会担当の令和７年度度第２回防衛講演会を開催しました。

県議会議員等多くの聴衆を前に、講師の髙田克樹家族会理事理事（元陸上総隊司令官）が、「激動する国際情勢と我が国の安全保障」と題し、戦後最も厳しく複雑と言われる安全保障環境、わが国周辺の中、露、北朝鮮及びイランの関係、クライナ、台湾等のトピックを解説するとともに、自衛隊の装備品の最適化の話題まで幅広くお話しいただきました

髙田講師

増田会長 挨拶

第 10 師団長垂水陸将、同副師団長兼ねて守山駐屯地司令黒羽陸将補 、空自岐阜基地司令富岡空将補、岐阜地本長川口１空佐等の高官にもお越しいただき、大きな成果を上げて令和７年度の防衛講演会を終了しました。

（２）令和７年度　地域協議会を開催

ア　**東北地域協議会：**10 月 21 日、山形県村山市で近畿地域協議会を開催しました。

各府県会長等の他、本部からは乾運営委員が参加し、

東北方面総監牛嶋陸将、第６師団長若松陸将、同副師団長貴島陸将補をはじめ、東北管内の各地方協力本部長等が出席しました。会勢の拡大のためにあらゆる機会を通じた PR の重要性が強調され、宮城県で防衛講話、体験喫食、体験搭乗、演奏会を組み合わせ、200 人以上の参加者を得た成果の紹介、家族支援協力では自衛隊に対し、「あんぴ君」への登録促進や、陸海空自の温度差の是正等の要望が出されました。

今回の地域協議会で、安田宮城県家族会長が東北地域協議会長に選出されました。

議長：野呂青森県会長

安田東北地域協議会長

牛嶋東北方面総監挨拶

イ　**北関東地域協議会：**10 月 26・27 日、新潟県長岡市で北関東地域協議会を開催しました。釼持北関東地域協議会会長をはじめ各県会長等の他、本部からは手塚北関東地域担当委員、自衛隊側からは東部方面総監部人事部長、管内地本長、第３０普通科連隊長、新発田駐屯地業務隊長が出席し、「家族支援に係る省統一の協定締結を受けて防衛省／自衛隊に望むこと」の他地域協議会が設定した「小規模市町村家族会活動活性化の方策」について討議しました。

防衛省／自衛隊に望むこととして「家族支援の重要性や家族支援制度があるという事を隊員に周知して欲しい」といった根本的な問題提起もされる等、実りある意見交換がなされました。

予定されていた防衛講話が都合により中止となり、代わって早川新潟県会長が、空自入隊～警察入庁～家族会での活動の経験談を、ミグ 25 事件（1976 年にソビエト連邦のミグ 25 機が函館空港に着陸した事件）の裏話等を交えつつ話しました。

早川会長

意見交換会には東部方面総監上田陸将、第 12 旅団長柳陸将補も出席され、有意義な時間を過ごしました。

ウ　四国地域協議会

11 月 27 日、高知県南国市で四国地域協議会を開催しました。 各県会長等の他、本部からは小和瀬四国地域担当委員、自衛隊側からは第１４旅団長仲西陸将補、高知駐屯地業務隊長、高知・香川・愛媛各地本長、徳島地本副本部長、中方総監部人事部募集課・厚生課班長等が出席し、「家族支援に係る省統一の協定締結を受けて防衛省／自衛隊に望むこと」について討議し、「自衛隊が隊員に家族会についての説明を強化し、隊員への理解促進を希望」「家族支援協力は家族会会員以外も対象になることから、一層の加入促進への協力を希望」等、具体的な要望が数多く出されました。その後、仲西第 14 旅団長の防衛講話を拝聴し、引き続き相互理解と密接な関係の強化を図る和やかな意見交換を経て地域協議会を終了しました。

森川　四国地域協議会長

仲西第 14 旅団長

（3）自衛隊記念日祝賀会

11 月３日、海上自衛隊横須賀地方隊において、自衛隊記念日祝賀会が、真殿知彦横須賀地方総監、平松廣司横須賀防衛協会会長、松下泰士横須賀水交会会長の共催により執り行われ、家族会員も多数招待していただきました。

真殿地方総監は冒頭の挨拶の中で、横須賀基地には英国、豪州はじめ多数の国の艦艇が入港していること、また米海軍横須賀基地にはトランプ大統領と高市首相が訪問されたことなど、緊迫化する国際情報の中で横須賀基地の果たす役割がますます大きくなってきていることを紹介されました。

参加者は和気あいあいとした雰囲気の中懇談し、名刺交換や近況報告、情報交換など親睦を深めつつ、自衛隊記念日をお祝い、楽しいひと時を過ごしました。

真殿地方総監挨拶

（５）部隊研修

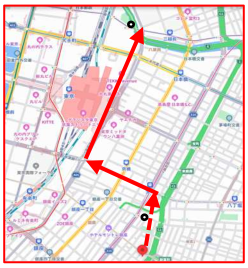
11 月 14 日、大分市大南・稙田地区会及び隊友会合同で、湯布院駐屯地及び日出生台演習場の研修を行いました。同駐屯地は昨年３月第２特科団、本年３月第８地対艦ミサイル連隊を新編し、演習場は米海兵隊射撃訓練及び共同訓練等（注：毎年横断幕を掲げて共同訓練を歓迎・激励しています。）で大分県において話題となっています。当日もオスプレイの訓練地として地元紙に掲載されていました。

この状況の中、地元の家族会として理解を深める必要があると考え企画した研修です。

新編部隊を含め部隊の現状説明を受け、装備品や駐屯地の施設等を見学した後に、演習場の全貌を一望できる高台で、歴史、訓練使用概要の他、維持管理や隣接自治体・地域住民対応についての苦労話を聞きました。初めて見る会員は演習場の広大さに関心を抱くとともに、年間 300 日以上使用されているという重要な演習場の位置づけを改めて理解することができ、今後の家族会活動に役立つ研修となりました。

（６）北方領土返還要求アピール行動

12 月１日、北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会主催の北方領土返還要求中央アピール行動が開催されました。昨年までは東京日比谷公園野外音楽堂で集会を催し、日比谷公園から銀座～鍛冶橋までを行進していましたが、今年は野外音楽堂が建て替え工事の為に使用できず、銀座ブロッサム中央会館に集合し、京橋から鍛冶橋通り、東京駅の東側を抜けて日本銀行近くの常盤橋公園までを行進しました。



20 名を超える国会議員、各都道府県代表､その他の団体を含め　運動に熱意を持つ人々が全国から集まる中、根室市長、黄川田内閣府特命担当大臣等が挨拶に立ち、元島民の決意表明の後に、茨城県家族会（正代会長、正代事務局長、大森さん、木間塚さん、酒井さん、関根さん）埼玉県家族会（関岡さん）、神奈川県家族会（中條会長、大串事務局長、石井さん、八巻さん）、本部（鍜治理事、荒木理事、中畑委員他事務局員）が共に銀座を行進して北方領土問題の解決をアピールしました。

4　事務局からの連絡

（１）「DW（ディフェンス・ワールド）２６」の購読申込案内

DW２６表紙

総合募集情報誌 DW２６は、１月末に完成予定です。

DW２６では、陸自：松本駐屯地、海自：佐世保地区、空自：小松基地を取材し、自衛隊員を目指す人や自衛隊を知りたい方に、最新の情報や写真を多く取り入れて、読み易く、かつ わかり易く編集しています。是非、募集協力活動や会員拡大にご活用いただきたく、また地本をはじめとする関係の皆様へお勧めいただくよう、お願い申し上げます。

申込みは、別添の「ディフェンス・ワールド２０２６年版購読申込書」を使用してメール、または FAX 等でご連絡をお願い致します。

なお**会員への販売価格は５００円／冊、申込期限は、申込書記載の通りです。**

（２）令和８年度各県自衛隊家族会事業計画作成について

令和７年度第３回理事会（１２月初旬書面決議）で「令和８年度自衛隊家族会事業計画（骨子)」を承認いただいた後、令和８年度各県自衛隊家族会事業計画の作成・報告について通知いたしますので、よろしくお願い致します。

（３）各県入隊・入校等予定者激励会について

年が明けますと、早い県では１月末から入隊・入校等予定者激励会が始まります。細部の日程が決定しないところもあるかと思いますが、予定が立ちましたら家族会事務局（業務担当）までご連絡をお願い致します。

細部様式等につきましては別途連絡いたします。

以上